



我孫子オーディオファンクラブ (AAFC) 分科会へのご案内 (会員による自主講座)

第12回 諏訪根自子(1920-2012)の足跡 (2/2回)

その2 演奏活動休止期 80年代の復活期

諏訪根自子は戦後ベルリンより米国経由帰国し、爾来約15年間日本ヴァイオリン界のトップスターとして演奏会活動をこなしてきたが、昭和36年41歳で突然表舞台から姿を消した。

その7年後、48歳の根自子は東大教授の大賀小四郎と結婚する。大賀とはベルリン時代からの知り合いであった。翌年西独ケルン日本文化会館初代館長に就任した夫と共に同地に赴任し、館長夫人として夫を支え3年間過ごす。

昭和53年58歳 世間からは忘れかけていたが、ヴァイオリンの練習に事欠かない姿を見た義弟信木三郎の勧めで、私家版としてバッハの無伴奏ヴァイオリン・ソナタ・パルティータの全曲録音を開始。3年後キングレコードの強い勧めでLP化し発売される。

昭和60年65歳 根自子のベルギー留学時代(当時17歳)に東京からパリまでの国産プロペラ機による親善飛行が敢行され、根自子もパリで花束贈呈に加わった。これがテレビドラマ化され、根自子によるサントラ録音が残された。

根自子の生涯敬愛する作曲家はバッハとベートーヴェンという。昭和61年66歳 ベートーヴェンの「スプリング・ソナタ」「クロイツェル・ソナタ」の録音をもって最終となった。平成24年92歳 波瀾の生涯を閉じた。その死が報道されたのは6か月後であった。

伝記作家の萩谷由喜子さんは根自子が48歳で突然演奏活動を辞めた理由、及びその訃報が半年も遅れた理由について一切触れていない。それは何故か？ 分科会では他の資料を基にその理由を解き明かしてみたい。

演奏曲目

1. バッハ： 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ・パルティータより
アダージョ、シャコンヌ、ガヴオット、ジーク
2. テレビドラマ「美貌なれ昭和」用のサントラ盤
ラヴェル： ハバネラ形式による小品、 サラサーテ： サパティアード
シューベルト： アヴェ・マリア、 モーツァルト： ロンド(ハフナー・セレナード)
バッハ： G線上のアリア (ピアノ：田中園子)
3. ベートーヴェン： スプリングソナタ、 クロイツェル・ソナタ(ピアノ：田中園子)



往年の女流
名ヴァイオリニストによる
演奏を聴く

日時 / 5月10日(日) 13:30~15:45

場所 / 久寺家近隣センター 多目的ホール

発表者 / 霜鳥 晃 シリーズ全13回 (予定)

参加自由・入場無料

問い合わせ / 04-7184-3771 佐藤 <http://www.aafc.jp/>